

中心市街地活性化施策調査報告書

期 日	平成 30 年 11 月 7 日（水）～11 月 8 日（木）
視察先	宮崎県都城市
出席者	高橋 豊 議員、井上 武 議員、奈良 握 議員、 栗山 香代子 議員、寺岡 まゆみ 議員、高橋 知己 議員、 松田 則康 議員、井上 敏夫 議員
随行者	見上副主幹
調査項目	中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」について
調査内容	<p>都城市の中心市街地は、消費スタイルの多様化、商店街の核となっていた大型店舗の相次ぐ閉店等に伴い、徐々に求心力を失い、平成 23 年 1 月の都城大丸の閉店により、歩行者の通行量が大幅に減少するなど、さらに危機的な状況に陥った。まちの中心を埋めるだけでなく、都市機能を集約してコンパクト化を加速するため、都城大丸跡地にリノベーションで中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」の整備を進め、平成 30 年 4 月 28 日に開業した。「Mallmall（まるまる）」には、図書館、未来創造ステーション、まちなか交流センター、保健センター、子育て世代活動支援センター、中央バス待合所、まちなか広場、中核施設附帯駐車場の 8 施設が整備され、全体の事業費は約 65 億円で、このうち図書館単体の改修工事費は約 21 億 7000 万円、延べ面積 1 m²当たり約 23 万円である。財源の約 3 分の 2 に社会資本整備総合交付金や合併特例債を充てた。</p> <p>整備に当たっては、雨天時の移動の円滑化を図るため、各施設間の道路上にシェルターを整備し、利用者に配慮している。また、まちなか広場は、屋根付きの多目的広場であり、指定管理条件に自主事業によるイベントを年間 200 回以上開催することを規定し、まちなかに新たなにぎわいを創出している。子育て世代活動支援センターのおひさまテラスは 3 階にあるが、屋根はなく、日や雨が降り注ぐ遊び場である。さらに、施設内の壁面に霧島連山の火山灰を練り込んだレンガを、図書館の木箱型書架には地元の木材を使用し、カフェは地元のレストランに委託するなど、市民に愛着を持ってもらうとともに地域の活性化を図り、開館 176 日で全施設来館者数が 100 万人を突破した。</p>
主な質疑	<p>Q 維持管理費用は。</p> <p>A 全施設で 5 億円である。</p> <p>図書館は、365 日、9 時から 21 時まで開館しているが、これをやめると少し抑えられる。日曜日の 18 時以降来館者は少なく、職員のミーティング等のために休みは必要である。また、図書館は「行政のフロントエンド（行政との接続点）」としても期待できる施設である。さまざまな情報を市民や行政が相互に伝えあえる場として、図書館の使命はかわりつつある。</p>